

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3770200362
法人名	社会福祉法人博安会
事業所名	グループホームなごみ
所在地	香川県丸亀市垂水町1353番地 (電話) 0877-28-2080

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価決定日	平成19年12月21日

【情報提供票より】(平成19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 5月 9日				
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人		
職員数	10人	常勤	7人、非常勤	3人、常勤換算	9.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	5,300円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,920円				

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2		3名	
要介護3	1名	要介護4		3名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 83.1歳	最低	79歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今田医院、三船病院、麻田総合病院、藤本歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「ゆったり、楽しく、穏やかに」「地域に密着した生涯にわたるお付き合い」を理念に掲げ、管理者、職員は情報を共有して、安全・安心・信頼されるグループホーム作りに意欲的に取り組んでいる。利用者の思いや希望を基に、個々の生活ペースで、役割や楽しみごとを具体的に実践している。特に、ホーム行事、日々のレクリエーションや外出支援には、職員が全員で考え、共に楽しんでいる。利用者一人ひとりが、和やかな笑いの中で、心安らぐ、なごみのある生活を、そして、尊厳やプライドを守れるように職員の笑顔と優しい言葉かけは、職員がケアの質向上に努力している成果がうかがえる。今後も継続した取り組みに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、ケアサービスの分野で改善課題があったが、評価を活かすため、管理者や職員が課題を共有して、順次解決に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員が自己評価の過程において、今後取り組みたい項目や課題について意見交換し、実践につなげていこうとする前向きな姿勢や取り組みがうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回運営推進会議を開催している。情報等の報告や意見交換し、その結果は職員にも周知している。今後幅広い意見をサービスに反映させるために、市や地域での役割を持った、視野の違った人々が参加してもらえるように、働きかけていくことが望まれる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情の窓口や意見箱を設置しているが、直接話ができる家族の面会や家族会を利用して、意見や不満、苦情について話を聴いている。また、管理者や職員は、家族の意見等を共有して、会議で話し合い、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会にも加入し、ふれあい祭り、学校行事、ふれあいセンター等への地域活動に参加し、交流している。また、近所の散歩や買物で挨拶したり、月・水・金は地域の来訪者もあり、一緒にお茶を飲みながら談笑する等、地域との良好な関係や連携を築いている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったり、楽しく、穏やかに」なごやかな笑いの中で、心安らくなごみのある生活を、そして、事業所理念の抜粋として「地域に密着した生涯にわたるお付き合い」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をお互いに意識し共有できるように、朝礼で復唱している。また、利用者一人ひとりの思いや希望に沿ったなごみのある生活を実践するために、会議などで日頃から話し合い、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ふれあい祭り、学校行事、ふれあいセンター等への地域活動に参加し、交流している。また、月・水・金は、地域の来訪者もあり、一緒にお茶を飲みながら談笑している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者や職員が意見交換し、課題を認識したり、外部評価を活かすように会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し、メンバーには、市関係者、利用者家族、地域住民等が参加している。情報等の報告や意見交換し、その結果は職員にも周知している。	○	幅広い意見をサービスに反映させるために、地域包括支援センターや地域での役割を持った視野の違った人々が、参加してもらえるよう働きかけていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議、行事の案内状や提出書類等は、市の担当者や関係者に直接持参し、関係作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3か月に一度、近況や出納報告をしているが、その時に利用者の気にいった写真を添えている。葉書や電話での報告も利用し、個々に合わせた対応をしているが、家族の面会時には、近況報告や情報提供をして交流に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や意見箱を設置しているが、直接話ができる家族の面会や行事を利用して、意見や不満、苦情について話を聴いている。管理者や職員は、家族の意見等を運営に反映するよう会議で話し合い、取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来ほとんど職員の異動がなく、馴染みの環境が作れるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成のため、法人内外での研修会参加を計画し、研修の機会を確保している。新採用者や職員の育成等は全員で取り組み、特に、育成に支障をきたしていない。そのため、事業所内で、職員の立場や役割等で段階的に育成するマニュアルを作成するまでには至っていない。	○	現在グループホームの増設中で、職員の異動や新採用も必要になると思われるので、段階的に応じた業務手順や育成マニュアルの作成が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修会や会議等で、情報や意見交換をしている。また、市のグループホーム連絡会の発足を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族と相談し、グループホームの見学や家庭訪問で話し合い、納得しながら、徐々に馴染めるように工夫している。また、信頼関係を築けるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の味付けや、掃除の仕方、花の名前や栽培方法等、利用者の得意な知恵を学んだりして、穏やかな生活を共に過ごし、支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、声かけをして、何がしたいのか、どこに行きたいのか、何が食べたいか等、具体的な思いや希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画には、利用者、家族も参加して意向を聞き、計画に反映できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直しを行っているが、現状の変化や評価も含めて、かみ合っていない計画がある。	○	一人ひとりの特徴を踏まえ、生活に密着した具体的な介護計画が望まれる。また、介護計画等の書類は関連づけることができるよう整理して、実践しやすい工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況は変化するため、その時に応じた対応ができるように話し合い、支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりにはかかりつけ医がおり、適切な治療が受けられるようにしている。また、受診等は家族の支援も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の方針に基づいて、早い段階から家族やかかりつけ医、各関係者が話し合い、情報を共有し、状態に応じた支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りを損ねるような態度や言葉かけには、意識して注意した対応をしている。また、記録等の個人情報の取り扱いにも十分に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの一日の流れはあるが、一人ひとりの生活ペースを優先し、ゆったり、穏やかな希望に沿った暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や盛り付け、片付け等、利用者の力を活かした役割分担をしている。職員は利用者好みの献立を取り入れたり、食事を一緒にして、食事がおいしく楽しみになるよう、共有した時間を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金が入浴日であるが、希望や状態に応じて、気持ちよく過ごせるように柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、園芸、習字、食事作り等、楽しみごとや力量に応じた役割を支援している。また、掲示板には、利用者の季節を感じる作品が掲示されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や買物でお金を使ったり、ボランティアと共に喫茶店でお茶を楽しんでいる。また、ドライブ等のほかに郵便局や市役所等へも一緒に行っている。気分転換やストレス解消のため、外出する機会を多く取るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者への気くばりや見守り、声かけ等、安全を確保しながら、日中鍵をかけない工夫に取り組んでいる。しかし、利用者の中には「鍵をかけないと用心が悪い」と言ったり、不穏状態等により、その時々に応じた状況で施錠もしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、日中、夜間を想定した訓練をしている。また、隣接の事業所が応援できる協力体制もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取量や水分量等をチェックして、一日の生活の中で把握し、食生活のバランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にベンチを置き、共用の空間には、季節の花や利用者の作品を飾っている。ソファや畳、食堂などで談笑したり、一人で過ごす等、その時の気持ちに沿って利用できる場所を設けている。不快な音や光、室温や換気などの環境にも配慮し、居心地の良い工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	表札を掲げて、手作りの作品や使い慣れた家具、小物などを配置し、それぞれの好みに合わせた居室になっている。		